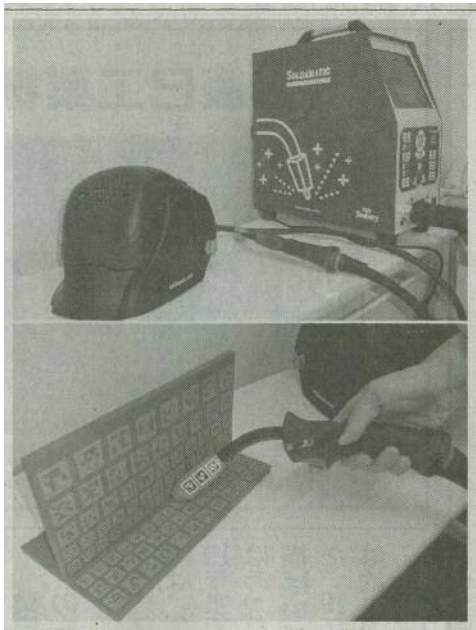
日刊工業新聞
THE NIKKAN KOGYO SHIMBUN
11月22日火曜日
2022年（令和4年）

ARで溶接作業 体験

コンチネンタル 社外向け講習に使用



【富山】コンチネンタル（富山市、岡田俊哉社長）は、拡張現実（AR）で溶接作業を疑似体験させることで作業者を訓練・育成するシステム「SOLD AMATIC（ソルダマティック）」＝写真＝を導入した。「大人の社会見学」をコンセプトに社外の人を同社工場に招くオープンファクトリー「てつラボ」で活用する。

AR溶接機本体、専用トーチや加工対象物（ワーク）などの付属品を含め、投資額は約500万円。

同社は富山県のモノづくり人材増加と地域産業への貢献を目指し、てつラボの定期的な実施を計画している。その中で溶接作業の体験ワークショップ（参加型講習会）を実施するため、同システムを導入した。

専用のヘッドマウントディスプレーでは、実際の溶接用マスクを通して見る映像を再現する。2次元コード「QRコード」を並べた専用のワークやトーチは現場にある鋼材や溶接棒に見える。溶接棒を鋼材に近づけると、アーク火花が飛ぶ中、溶けた溶接棒で鋼材の間を埋めていく作業を疑似体験できる。現実では存在するガスや高熱といった危険がなく、参加者は安全に溶接作業を疑似体験できる。

同社の主力事業は鋼板を使用した工作機械のカバー、電気機器の筐体（きょうたい）、建材などの製作。既存事業で培ったノウハウを生かし、あらかじめ加工したアングル材や角パイプ、形鋼を「プレ加工部品」として販売するなど新たな取り組みに挑戦している。